

PART5 14 世界の潮流

IoT・AIとネットワーク

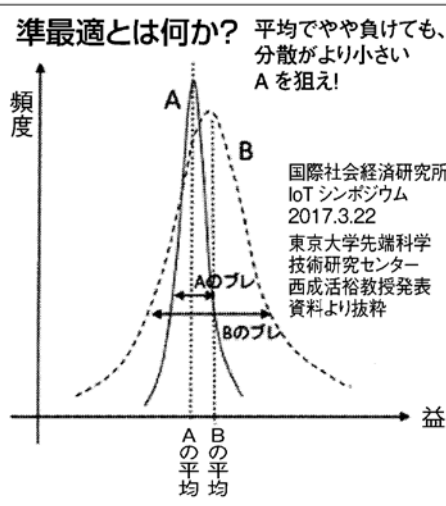
国際社会経済研究所(NEC グループ) 主任研究員

松永 統行



所最適化とは、その場、その時に合わせて最適な状態に近づけることをいう。

光色や昼白色や電球色など、多彩な色や明るさで空間を照らすことも可能になった。利用者の好みや行動を学習するようになったコンピュータとこれら照明がネットワークされれば、その場の状況や、その時の行動や、さらには気分や気持ちなどをコンピュータが認知し推測することで、局所的な適応を繰り返す明かりを作り出すことができる。状況も毎回変わるので、使うたびに、



国際社会経済研究所 IoTシンポジウム 2017.3.22 東京大学先端科学技術研究センター 西成活裕教授発表資料より抜粋

例えば、LED照明の場の状況や、その時の登場により、物を照らした時の物の見え方、つまり目の知覚のピッチが認知し推測することで、局所的な適応を繰り返す明かりを作り出すことができる。状況も毎回変わるので、使うたびに、

準最適化 授が紹介された準最適とは、上記の照明で例えれば、書斎や化粧室や寝室は、この色や明るさが最適であるという全体の平均的な最適値を一律に決めるのでなく、そこそこに合

感覚器官

カメラや温度センサーや人感センサーなど、多くのセンサーが混在する中で、人とマシンが共存するようになり、IoTする時代が到来しようという言葉が生まれ

従来のプログラム(命令)で動くコンピュータと、自律的に知覚し考えるコンピュータが混在する中

これまでの3回の連載で、IoT・AIネットワークという新しい概念の革新について触れてきた。多くのモノとつながるIoTと考えるAIが一体化するコンピュータネットワークの世界観、自律的な要素が加わる都市システムの可能性、そして、それらを生み出した三つの情報革新の本質について言及した。

多形的に適応するシステムの重要な特徴に局所最適化がある。局

知覚化や知能化急速に

た。このような情報通

(金曜日に掲載)